◆脳神経外科

院　長　藤岡正導

2012年度も引き続き脳外科専門医２名体制で脳疾患に対処した。しかし、それまで３年間脳外科診療に従事してきた築城裕正医長が、３月をもって済生会熊本病院（以下熊本病院）に異動し、４月からは同院脳神経外科専門医（吉永豊、濱崎清利、水野隆正、小林修の各医師）が３ヵ月交代で勤務する体制となった。

新規入院患者数は182名で、過去３年間では最も多くなっている（表１）。要因はいろいろ考えられるが、最近「出前健康講座の話を聞いて脳外科を受診しました」という患者が増えている。出前健康講座は開院当初から力を入れており、出前の回数も年々増加し2012年度は72回に達した。脳外科関連の講座にも毎年10回以上出向いている（表２）が、「脳卒中に予防に勝る治療はない」をモットーに、今後も地域住民の予防医療の啓発に努めていきたいと考えている。

疾患の内訳を見ると、やはり脳卒中が全体の７割近くを占め、中でも脳梗塞が脳卒中の69％と最も大きな割合を占めた（表３）。なお、この中にはリハビリテーション目的で他院から紹介された患者も含まれるが、脳卒中の入院患者が増加した結果、回復期リハビリテーション対象患者の２/３が脳卒中患者で占められた。

一方、手術に関しては、医師待機体制の問題から救急手術への対応は困難な場合が多く、頭部外傷やくも膜下出血などは熊本病院に治療を依頼した。その結果、ほとんどが予定の全身麻酔手術または局所麻酔下の手術となり、最終的な手術症例数は、全身麻酔手術症例は５例（脳腫瘍２例、顔面神経減圧術１例、バイパス術１例、その他１例）で、そのほかは慢性硬膜下除去術７例のみであった。

三角、上天草地域においては急速な高齢化に伴い、脳疾患、特に脳卒中診療の必要度はますます高くなっている。緊急手術体制は問題を残すものの、増加する一方の脳卒中患者に対応するため、量質両面の診療体制の充実を図りたいと考えている。

表１：脳外科新規入院患者数

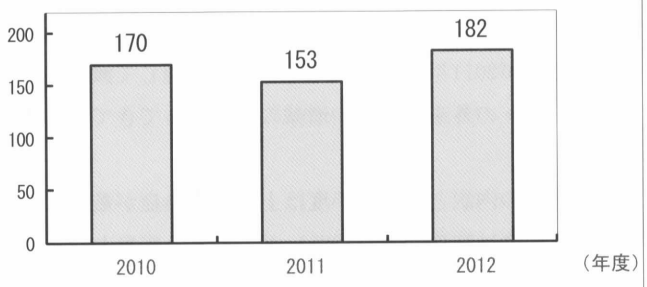

表２：出前健康講座講師担当内訳（回数）

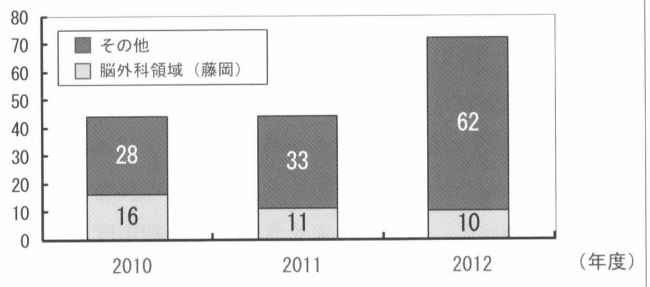
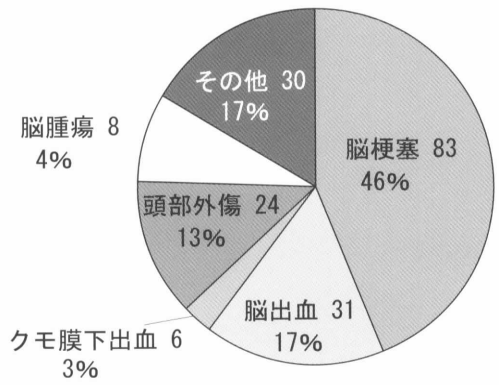
表３：入院症例182例の内訳